

■ タイ国科学技術博覧会2019への出展

8月16日(金)から25日(日)、バンコク北部ノンタブリー県の展示場 IMPACT において、タイ国高等教育・科学・研究・イノベーション省¹が主催する科学技術博覧会が開催され、出展を行った。本博覧会は1986年より開催され、主催者によると毎年100万人が来場し、NICTは2007年から毎年出展²している。出展に当たっては、タイ及びシンガポールに出先のある日本の研究機関とともに日本パビリオンの一画にブースを構えた。昨年同様、在タイ日本大使館と連携して、NICTが主体的に日本パビリオンのレイアウトなどの全体調整を関係機関と行った。NICTの主な展示内容は以下の通り。

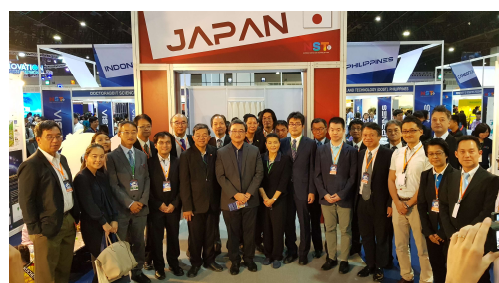
- ① 光アクセス及び光デバイスについてのチュラロンコン大学(CU)との共同研究
- ② 宇宙天気予報についてのモンクット王工科大学ラートクラバン校(KMITL)との共同研究
- ③ その他、5G研究、NECTECとのひまわり画像データの公開Webサイト、CUでのNerveNetを用いたバスロケシステム、VoiceTra及びASEAN IVOの紹介

17日(土)開会式典後、タイ国高等教育・科学・研究・イノベーション省大臣首席顧問(元科学技術省事務次官、大臣の代理)による展示会場内の視察が行われた。その際に、NICTの門脇理事、及びタイの共同研究機関³の先生方から、共同研究の内容を中心にNICTブースの説明を行った。また、本博覧会の開催中、共同研究機関の学生に来訪者の特に小中学生に対して”タイ語”で説明してもらうことで、NICTの活動に興味を持ってもらうとともに、より深く理解してもらうように努めた。

特に子供たちむけには、可視光による光通信の実演、乾電池と磁石を使った地場と地球磁場やプラズマのオモチャによる地球環境の実演に加え、算数問題や折り紙などのアトラクションも用意し、科学技術への興味をそそる工夫をこらした。



タイVIPに説明するCU Dee先生



日本パビリオン関係者及びタイVIP



NICTブース関係者



来場者で賑わうNICTブース

¹ 今年5月に旧科学技術省等が合併して発足した新しい省

² バンコクで開催されなかった2014年を除く

³ チュラロンコン大学(CU)及びモンクット王工科大学ラートクラバン校(KMITL)